

ろです。

○**渋谷佐輔議長** 2番、浅野敏明議員。

○**2番 浅野敏明議員** ぜひ公共複合施設整備事業についてはPPP、PFI、コンセッション事業についてぜひ実現できればなと思っています。

国の制度で可能性調査の補助制度もありますので、自前で検討するのはいいんですが、活用して調査事業を行えばさらに深まると思っていますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

じゃあ市長のほうからお願ひします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 申しおくれてしまいましたけども、実は今年度、国土交通省の都市計画関係の補助事業を受けようと2つ申請をしておったんですが、残念ながら1つだけしか申請を受けられなかったんですが、地域プラットフォーム形成支援事業ということで、これは国土交通省が直接やるんですが、官民連携事業を積極的に国も推進しようということで、その支援事業に私も長井市が採択を受けることが決定しましたので、これ2年間受けられるんですよ。具体的に事業が煮詰まった段階でいろいろ民間との打ち合わせを国のほうからも支援いただいで行うということでございますんで、申し添えたいと思ひます。

○**渋谷佐輔議長** 2番、浅野敏明議員。

○**2番 浅野敏明議員** 可能性調査については、ぜひ期待したいと思ひます。

これで質問は終わります。(拍手)

○**渋谷佐輔議長** ここで昼食のため、暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午後 0時00分 休憩

午後 1時00分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

内谷邦彦議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位3番、議席番号4番、内谷邦彦議員。

(4番内谷邦彦議員登壇)

○**4番 内谷邦彦議員** 創生会の内谷邦彦です。通告に従い、質問いたしますので、よろしくお願ひいたします。

昨今、長井工業高等学校を志望する生徒の数が減っていることに関し、私も長井工業高校の卒業生の一人として、また長井市の将来を考えたときに大きな問題ではないかと考えております。

現状を見てみますと、平成29年度入学、機械システム科、定員40人に対して志願者、合格者29名で倍率0.73、電子システム科、定員40名に対して志願者、合格者23名で倍率0.58、福祉生産システム科、定員40名に対して志願者、合格者22名で倍率が0.55。平成28年度入学、機械システム科、定員40名に対して志願者42名、合格者40名で倍率1.05、電子システム科、定員40名に対して志願者24名、合格者25名で倍率0.60、福祉生産システム科、定員40名に対して志願者34名、合格者35名で倍率が0.85。過去5年間の統計では、機械システム科、定員40名に対して37.4名で倍率0.93、電子システム科、定員40名に対して25.2名で倍率0.63、福祉生産システム科、定員40名に対して30.6名で倍率が0.76。全ての学科で定員割れが発生しており、特に電子システム科の志願者が少なくなっています。

また、平成28年度の学校要覧によりますと、在校生の出身地について、在校生276名のうち

長井市157名、56.88%、白鷹町40名、14.5%、飯豊町25名、9.05%、ほか小国町、南陽市、川西町、高畠町、米沢市54名、19.57%。また、卒業生の進路状況を確認しますと、平成27年度卒業生、就職希望者68名で、長井市内企業17社、白鷹町3社、飯豊町6社、南陽市4社の各企業に、平成28年度就職希望者61名で、長井市内企業16社、白鷹町5社、飯豊町4社、南陽市6社の各企業に就職しており、長井市を初め近隣市町の企業へ人材を供給する大切な高校ではないかと考えております。

長井工業高等学校に関しては、1994年から95年に校舎の老朽化と県の公立高校クラス数削減方針が相まって廃校が具体的に検討され、長井工業高校ならではの存在感を示さない限り存続は難しい状況に陥り、長井工業高校を再生、活性化し、存続させるための活動も始まり、山形県立長井工業高等学校建設促進期成同盟会が発足し、さまざまな活動により現在に至っております。

ものづくりのまちとして、その人材を供給すべき長井工業高等学校へ進学を希望する生徒が減っていることについて、すぐにでも具体的な動きをする必要があると思います。

今、長井工業高等学校を志望する生徒数が減っていることについてはさまざまな要因があると思いますが、教育長はどのように考えているのか伺いたいのですが、いかがでしょうか。

先日、長井工業高等学校の小関校長と面談する機会があり、入学志願者が減っていることについて話を伺ってきました。小関校長も非常に危機感を持っておられました。

では、要因として何が上げられるのかと話になり、最初に考えられることは、長井工業高等学校の実情が知られていないのではないかと、何を学び、どのようなおもしろさがあり、将来に向かってどのようなことができるのか、そのことを今の中学生に十分に情報として知らせてい

るのか、それが一番の問題ではないかとの話になりました。

以前には、長井工業高等学校の関係者が各中学校に訪問し、長井工業高等学校はこんなところですよといった紹介を行っていた時期があったと聞いております。やはりこの活動を復活させることが長井工業高等学校をより身近に感じ、内容を知ってもらい、興味を持ってもらうことが重要で大事なのではないのでしょうか。

小関校長の話では、庄内地区では各中学校に地域の高等学校が訪問し、学校説明会が開かれており、その場でさまざまな情報を与えているとの話がありました。このような機会をつくる考えは教育長にあるのでしょうか。

また、中学校の進路指導を担当しておられる先生は、長井工業高等学校の各科の内容についてどの程度知っているのでしょうか。高校の普通科であれば特に周知する必要はないかもしれませんが、長井工業高校の機械システム科、電子システム科、福祉生産システム科ではどのようなことについて学び、将来どの方向に進めるのかと生徒に問われた場合、的確に説明できるのでしょうか。また、教育委員会として指導もしくは確認されているのでしょうか、教育長にお伺いします。

3月の定例会で五十嵐議員より、地元企業によさ、正しい情報を見聞きする機会を設けるべきとの質問があり、教育長の回答は、本市にはものづくりで実績を上げてきたすばらしい地元企業がたくさんあり、企業によさを子供たちに伝えることは大きな意義がある、中学3年生になると職場体験活動を位置づけまして、生徒たちがさまざまな職場に出かけ、職業観、人生観を学ぶ貴重な機会となっているとしておりますが、昨年度、南中学校、北中学校3年生が職場体験をした企業先、職種、受け入れ企業数、受け入れ数について伺いたいのですが、いかがでしょうか。

また、受け入れ先については、生徒の保護者が手配するのか、または学校で手配するのか、どちらが多いのか教えてください。

以前は市内企業の協力もあり、さまざまな職場に行かれていたようですが、今では企業側でもけがをされてしまうことを恐れ、保険に加入したりする必要があり、煩雑な作業になることから、今では主にサービス業の職場体験になっているのではないのでしょうか。どのような製造業の企業が長井市にあり、何をつくっているのか、つくった部品が完成品となった製品のどの部分に使われているのか全然知らない。知らないために興味を持たない状況ではないのでしょうか。以前は市内中心企業としてマルコン電子株式会社があり、関連企業が多数市内にあったために親が勤めている子供がたくさんいて、自然に企業の名前が子供たちの耳に入っていたのではないのでしょうか。今ではその状況も皆無となってしまうのではないのでしょうか。

市内の中学からの志願者をふやすことについて質問させていただきましたが、一方、市外からの入学志願者をふやす方策についてどのように考えているのでしょうか。

荒砥高校では、入学者に対して町で入学準備金として支援しているとの話を聞いております。荒砥高等学校については、立地の関係、問題はあっても、総合学科として新しい方向を模索しており、また行政から入学準備金を支給するなどにより入学志願者をふやす取り組みがされていますが、このことについて教育長はどのように考えておりますか。

長井工業高等学校の入学者減少は、人口減少に関しても大きな要因の一つではないかと私の個人的な意見として考えております。長井市内中学生が多く進学している長井高等学校に関しては、進学校としての位置づけもあり、ほぼ他県に進学のために行ってしまいます。先日、中学校の教諭と話す機会があり感じたんですが、

高校教育が終わり、進学し、長井市を出て行って4年後に戻ってくることを考える子供たちはどのくらいいるのでしょうか。このような件について調査を行ったことがあるのでしょうか。あった場合伺いたいんですが、いかがでしょうか。

小学生や中学生に対して、市内企業の内容や実情、長井市としての魅力、都会に負けないような魅力をさまざまな方々の力をかり、子供たちに正確に伝える必要があるのではないのでしょうか。長井市や長井市の企業に魅力を感じることに、一方で長井工業高等学校に進学し、地元企業に就職する、他方で大学や専門学校への進学によりさらなる先進技術を学び、長井市の企業に戻ってくることが選択肢として出てくるのではないのでしょうか。

また、先日の全員協議会、長井市の平成30年度長井市重要事業要望書（案）が示され、その中に県立長井工業高等学校への専攻科の設置についてとして、また産業・建設常任委員会協議会においても同様の件について説明があり、入学志願者の減少について、平成25年度の県内高等学校の定員数見直しで環境システム科が廃止され、選択肢が少なくなったことも一つの要因として上げられ、現状の課題である本市企業の人材不足や少子化などによる学生数減を解決するため、入学者にとって魅力ある工業高校を目指し、高度化する学びに対応する専攻科の設置が求められ、当校がプロジェクトとしてかかわってきたロボット産業に関係し、また市内企業からの関心も高く、今後産業界で成長が期待されるA I分野などの専攻科の早期設置を要望として上げられております。

入学者減少に対して、卒業生として非常に危機感を持っておりましたので、県に対して重要要望事項として上げられたことは危機感が共有でき、よいことだと思いますし、要望が達成できるよう協力していきたいと思いますが、県で

発行している県立高校教育改革実施計画によりますと、中学校卒業生数の減少に対応するために計画的に入学定員を減少しますとし、平成25年に置賜農業高校飯豊分校の募集停止、荒砥高等学校普通科を総合学科に改編、長井工業高等学校工業科1学級減、平成26年、米沢商業高等学校商業学科1学級減、平成28年、米沢工業高等学校工業科1学級減としており、今後の南学区の卒業生の推移予測では、平成30年で前年より121名減少、平成31年で前年より35名減少、平成32年で前年より33名減少、平成33年で前年より143名減少となっており、平成29年と比較し平成33年には332名減少してしまう予測となっております。

また、平成29年3月の改訂版では、1学年当たり4学級を下回る単独校について当面は単独校と維持しながらも、さらに小規模化が懸念される場合には他学科との再編を検討しますとあり、厳しい状況と思いますが、さまざまな手段を使い、長井工業高等学校の専攻科の設置を実現していただきたいと考えます。

県立長井工業高等学校への専攻科の設置の件について一部不明部分があり、教えていただきたいので、よろしく願いいたします。

産業参事に伺います。現行の高校教育3年の後、さらなる上位の位置づけとして専攻科を設け、2年間勉強し、短大の資格を得られるとしておりますが、参考となるような学科を持っている専門校は全国にあるのでしょうか。あるのであれば、わかれば教えてください。

また、現在の市内企業内でロボット産業に特化した企業は何社あり、専攻科ができた場合、卒業生の受け入れ先について調査、確認されているのか教えてください。

次に、観光案内電柱広告掲出管理業務委託料、平成28年度、29年度予算61万7,000円について、産業参事に伺います。

電柱広告で確認しましたら、電柱広告につい

ては、製作、掲出、管理全てNTT関連会社もしくは東北電力関連会社が行っているようです。国道287号線やまちなかに設置されていますが、委託はいつから始まり、委託している電柱の本数は何本になるのか教えてください。また、現状どのような状況になっているのか確認したことがあるのか教えてください。

豊田地区、泉地内の電柱広告は、印刷が薄くなっていて何が書いてあるのかわからない状況となっておりますが、このまま継続するのか。設置した当時には車で来られる方が迷わないように電柱広告を設置する意味はあったと思いますが、現在、自家用車で長井市に来られる方はカーナビゲーションを使われて来る方がほとんどではないかと思えます。その道案内として設置している国道沿いの電柱広告についての役目は終わっているのではないのでしょうか。逆に、薄くなって何が書いてあるか読めない、一部だけ判別できる広告は、観光客に余りよい印象を与えないのではないのでしょうか。また、市内にも電柱広告がありますが、こちらも目的は車で来られた方を対象にしているのではないかと。現在、まちなか歩き観光を推進するのであれば、まちなか歩きに適した広告看板や道案内表示が必要なのではないかと私は考えるのですが、産業参事はどのように考えるのか教えてください。

年間の委託料は61万7,000円となっておりますが、薄くなっていて何が書いてあるのかわからない広告では、効果金額として考えた場合、逆にマイナスになってしまっているのではないのでしょうか。電柱広告について、今後も設置するのであれば、何を目的とし、どこに設置するのか再度考えるべきと考えますが、いかがでしょうか。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** ただいまご質問いただいたこ

とにつきまして、お答え申し上げたいというふうに思います。

まず初めに、長井工業高等学校の志願者が減っている要因についてどう考えているのかということでございますけれども、私も長井工業高等学校につきましては、長井、それから西置賜地域のものづくりを支える人材を育成するため、極めて重要な役割を果たしている高等学校であるというふうに考えてございます。しかし、内谷議員ご指摘のとおり、ここ数年、長井工業高等学校への志願者が減ってきてございます。この要因についてはさまざまあるかと思いますが、まず一番大きな原因は、全体的な生徒数の減少、やはりこれが一番大きな要因であろうというふうに思います。それから、これは南北中の校長先生ともこのことについて何回か話す機会があったんですが、その中で出てきた理由の一つとして、中学生の進路決定の先送り傾向が最近強いのではないかというふうなことが話題になりました。つまり、親と相談をしながらも、とりあえず普通科に進んで、そこでその先の進路を考えてみようという生徒が割合的に多くなってきているのではないかとございます。それから、議員先ほどご指摘のとおり、長井工業高等学校の魅力であるとか特色、これが本当に中学生にちゃんと伝わっているのかといったことについても十分ではないのではないかとということもあろうかというふうに思っております。

続きまして、庄内地区から来られた校長先生、小関校長先生でございますので庄内地区の話をされたというふうに思いますけれども、地区の高校が各中学校に訪問して学校説明会を開催しているのかということでございます。これにつきましては、長井市内の両中学校において、親子進路説明会としまして5月と10月ごろ、年2回開催しているところでございます。そして、2回目の10月には、置賜地区の公立校11校ある

わけでございますけれども、公立校と、それから私立の高校の先生方をお招きいたしまして、各学校の特色、教育の特色などについて説明をしていただいているところです。また、その際に卒業生に学ぶということで、実際に何名かの高校生にも中学校に来てもらって、高校生活について話をいただいているところでございます。

それから、中学3年生が実際に高校に行って、何か模擬授業というふうなことがあるのかということでございますけれども、これにつきましても、いわゆるオープンスクールと、日本語でいえば体験入学ということになるかと思っておりますけれども、ちょうど夏休みの時期から10月ぐらいまで、これは各学校によって時期は違いますが、体験入学というのも各学校設定していただいております。これには多くの生徒が参加してございます。学校のほうの指導としては、できるだけ多くの学校に行きなさいと、特に市内の学校については行ってみなさいということで指導をしているところでございます。

なお、長井工業高校の昨年度の体験入学、オープンスクールの参加者でございますけれども、南北両中学校合わせまして77名が参加しているところでございます。

それから、進路決定にかかわって西置賜地区全体でつくる先生方の研究会と申しますか、現職教育協議会というのがあるんですが、その中には進路指導専門部会というものがございます。そこで県内の高校の情報をまとめました進路選択の手引というのを毎年度作成しまして、西置賜地区の全ての中学3年生に配付しているところでございます。それをもとにしながら、各学校の特色であったり、どういう内容を学ぶのか、あるいは卒業後どんな進路があるのかなどについて、それをもとに学習し、3者面談などでも活用いただいているということでございます。

それから、3つ目のご質問の各中学校の進路

指導担当教諭について、長井工業高校についての知識は十分なのかというご質問でございますけれども、まず、進路指導担当教諭は当然中学3年生の全体を担当する大変責任ある立場でございます。その進路指導担当教諭につきましては、ちょうど入学説明会、各中学校の担当者を集めての各高校ごとの説明会がございますので、それに参加し、どういう学科でどういう学習をするのか、どういう資格が取れるのか、さらには卒業後の進路はどうなのかといったことについて説明を受けてきてございます。この説明会に参加して、そして自分の学校に戻り、学級担任等々と情報を共有しながら、生徒や保護者に丁寧に説明をすることというふうにしてございます。したがって、長井工業高校についての知識につきましては、進路指導担当者は十分とは言えないまでも、一定程度は持っているのではないかなというふうに認識しているところでございます。

それから、4番目のご質問でございますけれども、中学生の職場体験についてのご質問でございます。本市の職場体験は、3つ狙いにして実施しているところでございます。1つは、実際に職場で働く体験を通しまして自分の将来であるとか生き方に対する関心を高めるというのが1つの狙いです。それから、2つ目の狙いとしては、地元の企業、職業について理解を深めて、働くことの意味、喜び、あるいは厳しさなどを感じ取らせるというのが2つ目の狙いでございます。それから、3つ目につきましては、職場体験活動を通じまして礼儀であるとか規律、それから言葉遣い、いわゆる社会生活に必要なルールやマナーを体得する、この3つを狙いとして実施してございます。

職場体験を進めるに当たりましては、長井商工会議所の専務理事初め建設部長、工業部長、商業部長など、それからJAおきたまの支店長、それから市の子育て推進課長、それから商工観

光課長、それから各中学校のPTA会長の方々にキャリア教育推進員というのを務めていただきまして、市内の多くの関係企業・機関、それから事業所に受け入れの働きかけをしていただいているところでございます。

昨年度の体験企業数でございますけれども、昨年度の場合、98の企業や事業所に受け入れをしていただいているということでございます。業種につきましては、製造業、それから建設関係、サービス業、それから病院、消防署、市役所などの公共機関、それから教育関係、福祉関係などさまざまでございます。1事業所当たりの受け入れは、1ないし3名というところがほとんどでございますけれども、事業所によりましては多いところで10名受け入れていただいているというところもございます。

それから、5番目のご質問でございますけれども、職場体験の受け入れ先は誰が手配するのかということでございますけれども、受け入れ先の手配につきましては、依頼書を教育委員会で作成してございます。そして、南北中学校のそれぞれの学校地域コーディネーターという、いわゆる学校と地域をつなぐ役割の専門家がおりまして、その方が合計130の事業所に依頼の文書を送付してございます。その後、地域コーディネーターが受け入れ可能な事業所について取りまとめまして、生徒に希望をとり、調整し、体験する事業所を決定していくという流れになってございます。

今年度につきましては、現在各事業所から受け入れの回答をいただき、各中学校のコーディネーターが現在調整をしているというところでございます。

それから、6番目のご質問でございますけれども、白鷹町で行っているような入学準備金等の支援についてどう考えるのかということでございます。

議員ご発言のとおり、白鷹町では県立荒砥高

等学校への入学者に対して、町内からの入学者のみならず、町外からの入学者にも入学準備金として1人当たり7万円を支給してございます。このことよって入学者数の減少傾向に歯どめをかけようというふうな取り組みだというふうに思いますけれども、入学志願者をふやす取り組みとしては一つの方法であるというふうに思います。

ただ、長井市として同じような対応がとれるかというふうなことでございますけれども、市内には2つの高等学校があるわけでございまして、どちらかにだけという、そういう対応というのはなかなか難しいのではないかなというふうに考えてございます。

ただ、何らかの手を打っていかねば志願者の増にはつながっていかないわけで、とりわけ長井市以外の中学校のPRにつきまして、長井工業高等学校の校長さん初め先生方に頑張っていたいただきたいと思っておりますけれども、教育委員会としても長井工業高等学校さんの取り組みに積極的に協力してまいりたいというふうに思っておりますのでございます。

それから、7番目のご質問で、高校教育修了後、他県に行った生徒が4年後に長井に戻ることにあつての意識調査みたいなことをしたことがあるのかということのご質問でございますけれども、まず大変申しわけないんですが、長井市教育委員会としては管轄が異なるということもありまして、意識調査等は実施してございませんけれども、長井市内の長井工業高校と長井高校の両校に照会をさせていただきました。まず、長井工業高等学校につきましては、意識調査はしておらないそうですけれども、大学、短大、それから専門学校に進学した生徒の約50%、人数にすれば15名前後ということでございますけれども、50%が地元に戻ってきているということでございます。長井高校につきましては、同じく照会かけさせていただきましたところ、こち

らでも意識調査はしておらないということでございますけれども、今年度は市役所、それから長井市内の金融機関、それから小・中学校の教員になっている生徒がこちら10数名いるということでございます。以上でございます。

○**渋谷佐輔議長** 谷澤秀一産業参事。

○**谷澤秀一産業参事** 専攻科の設置の参考となる学科を持っている専門校は全国にあるのかというご質問でございますが、まず、平成28年度の学校基本調査によりますと、専攻科のある高校数は全国で135となっております。そのうち公立高校は68校となっております。その内容を見てみますと、圧倒的に看護、あるいは水産系が多く、工業系はわずかであります。

このたびの長井工業高等学校の専攻科設置については、本市の産業振興をご指導いただき、同校の企業連携を全国に紹介していただいた明星大学の関 満博教授にアドバイスをいただいております。

長井工業高等学校は、平成13年の改築に際して、地域企業などから成る市民運動を展開してまいりました。その過程で企業との連携が生まれ、全国に先駆けた技能検定や地元企業との共同研究、多くのプロジェクトが推進されました。そして、これらの成果によりまして、同校は平成21年にもものづくり日本大賞を受賞して、全国から注目されたところでございます。

この長井工業高校を北上市の黒沢尻工業高校などが視察されました。現在は黒沢尻工業高校のほうで専攻科が設置されまして、技能検定2級などの高位の資格取得を目指す成功例として知られているところでございます。

今回はさきにご説明しました関教授のご紹介もあり、黒沢尻工業などを参考にしたいと考えております。

内容については、それぞれの立地企業の背景や目指す産業も異なりますことから、今後企業と協議して検討してまいりたいというふうに考

えております。

もう一つ、市内の近隣にロボット産業などに特化した企業が何社あり、受け入れ先について調査、確認されているかということにつきましてですが、長井工業高校で想定しております、授業の中にもちょっと入れておりますが、IoTあるいはAIの分野、特にIoTというものが実現しようとしております社会とか産業について、言葉は普及してはいますが理解がちょっとまちまちかなというふうなことで、IoTというものをちょっと確認させていただきたいと思っております。

IoTというのは、モノのインターネットというふうに訳されます。つまり、商品とか工業設備などのものがセンサーとインターネットを通じてつながると。そして顧客が製品やサービスをどう使い、何をしようとしているかを即座に把握して、モノを紹介した体験を提供できるようにする社会、そういった産業を目指すということだそうであります。

こうした社会や産業の実現には、IoTを実現するセンサー、あるいはインターネットの仕掛けをつくる技術、そしてIoTを産業上で使う技術、この両方が、双方が必要であると思われれます。工場では設備にセンサーを取りつけて、それらの情報をフィードバックさせて稼働状況の最適化を図っていくと、こういったことが双方の技術に当たってくるというふうに考えられます。

したがって、専攻科で想定していますIoTの活用場面、これは必ずしもロボット産業に特化する必要はないと思いますが、学習方法としてはセンサー類と制御、そして製造と活用、この双方を扱えるロボットの例えばこれまで長井工業で取り組んできたマイクロマウスなどの技術、こういったものが最適な教材であるというふうに考えるものであります。

市内の企業を見てみますと、実際にセンサー

とか制御を駆使した専用機、あるいは省力化機械、こういったものを製造する企業、例えば吉田製作所さんであるとか山口製作所さん、フューメックさん、多数ございます。そして、生産工程で省力化機械であるとかセンサーなどを使用している企業はそれ以上にありますので、活用場面は多くあるのではないかとこのように考えております。

また、専攻科の卒業生受け入れについてですが、企業の調査はまだ行っていませんが、専攻科の設置については以前から企業との懇談の中で話題になっておるものでございます。今回も会合などでいろいろご意見を伺っておるところであります。今後は以前校舎改築を目指した平成7年度のような動き、企業などに参加いただき、そして組織化しながら親御さんの意見なども聞きながら、まとめていくことになるかなというふうにも思っております。

次に、大きな2番目ですが、観光案内電柱広告についてでございます。

最初に、電柱広告の委託についてということで、現在更新管理を委託しているものは平成元年からでありまして、平成28年度は92本を委託しているということでございます。

それから、2つ目、現状の確認についてですが、一斉に現地確認を実施したのは平成24年でございます。

内容変更の看板については、設置時に現地確認しておるところでございます。平成28年度の時点で、議員おっしゃるように文字の薄れていて、ちょっと読めないというふうな部分も認識しておりますので、今年度には、まず対象本数を確認しながら、管理委託した看板については今年度のうちに調査の上、更新をしたいというふうに考えるものでございます。

それから、3番目の電柱広告の目的についてですが、これはやはり車で来られる観光客の方への道案内の役目、これが大きいと思っております。

ます。裏表2枚1組の掲出というふうになっているということで、市内の観光に関する取り組みを紹介する役目も持っているというふうに考えております。

その書いてある一例を挙げますと、黒獅子の里長井とか、山形おきたま花回廊キャンペーン、あと、あやめ公園の案内であったりということがございます。

また、観光以外で訪れた方への観光スポットの紹介、そして歓迎の雰囲気表現するための掲出、これも意味はあるのではないかとこのように考えるものであります。

それから、まちなかの電柱広告は道案内広告とすべきということではありますが、この掲示の位置からすると、やはり車からの視線を意識したものというふうに考えております。まち歩き観光については、地番表示などもなされているので、道案内、そして目印として活用できるのではないかと思います。

あと、まち歩きのための看板としては、歩行者用に設置しております茶色の案内看板、あと、フットパスのコースを示している枕木を生かしたサイン標識などもございます。それらとあわせて観光客の方にわかりやすい案内となるように考えてまいりたいと思います。

あと、最後に、設置の内容を再検討すべきということでございます。この点については、再検討をしていかなければならないというふうに考えるところです。特にその掲示する内容であるとか、あと、どこに設置していくか、効果的にできるように内部でも検討しながら、より有効なものとなるように努めてまいりたいと思っております。以上になります。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** 丁寧な説明ありがとうございました。

教育長にお伺いしたいんですけども、中学3年生には長井工業であったりは説明されている

と思うんですけども、逆に、やっぱりその下の年代ってというのはどういった形で説明されているのかというのはおわかりになりますでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** いわゆるキャリア教育のプログラムというのが各中学校で持ってございまして、例えば1年生については、自分の特徴、よさ、何に向いているか、そういうことを知るであるとか、2年生になりましたら、どんな職業が世の中にあるのかとか、そして3年生ではいよいよ自分の進路をどういうふうに見定めるか、そういうカリキュラムができてございますので、その中で、さまざまその将来の職業について考えるという場面は設定されてございます。

ただ、じゃあ、長井市内の企業についてどの程度理解しているかということについては、やはり2年生以下の生徒については若干薄いのかなというふうに思っております。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** やはり長井工業高校に進学する生徒をふやすためには興味を持っていたかかないとどうしようもないというふうに考えておりますので、やはりそのような機会をぜひつくっていただきたいと思っております。

この先日の長井商工会議所の工業部会の会長さんとお話しさせていただいたときに、企業においてプレゼンテーション用の資料を必ず持ってらっしゃるというふうに思っております。そういったプレゼンテーションの資料に関しては、自分のところの企業を当然アピールするわけですから、こういったものがつくれますとか、こういった加工方法をやってます、うちの製品はこういった部品のここの製品として使われてますというふうなプレゼンテーションのフィルムないしはパワーポイントを持ってらっしゃいますので、逆にそういったものを活用して中学生であったり小学生に長井市内の企業を教えると、

あと、興味を持たせるためには、まず目で見させることが大事だと思いますので、そういった時間がとれるというふうなことはできますでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** 例えば、特定の企業だけにとするのはなかなか難しいかなというふうに思いますけれども、ただ、長井市内にこんな、例えば世界的に有名な商品で、その部品の一部をここでつくってるんだよなんていうことについては、やはり児童生徒の将来に対する道をといますか、夢を開かせるような、そういう取り組みだと思えます。

小・中学校、なかなか時間的に、じゃあそういうものがあるかといわれると非常に厳しいところはあるんですけども、職業講話というような形でとることは可能だというふうに思いますので、何らかの形でその辺、できるだけ3年生だけじゃなくて、2年生、1年生から、そういうのに触れる機会というものを校長会と話をしながら取り組んでいきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** 工業部会の会長も積極的に協力するというふうなお話をいただいておりますので、ぜひそういった機会を設けていただいて、長井市内の企業がどういったもの、トヨタであればトヨタのこの車のこの部品をうちがつくってますというふうな、やっぱり子供たちに夢が与えられるようなことができれば非常にいいかなと思いますので、その辺はぜひ今後も、まあ、工業部会とどういうふうな話になるかっていうのはまだちょっとよくわからないんですけども、コンタクトをとっていただいて、ぜひ進めていただければと思います。

あと、荒砥高校で行ってる入学準備金という話なんですけども、やっぱり長井市内では長井高校もありますので、当然かなり難しい状況で

はあると思います。ただ、ある保護者の方と話す、やっぱり長井工業高校の入学志願者が減ってる要因というのは、一番の問題点はフラワー長井線の定期が高いことだというふうなことをおっしゃる方もいらっしゃいます。

私、ちょっと調べてみたんですけども、やはり、参考としてなんですけど、今泉からあやめ公園駅まで区間距離で16.5キロで、1カ月で9,160円、3カ月だと2万6,110円、6カ月で4万2,020円になると。参考に、今泉―米沢間で距離は23キロなんですけど、1カ月で7,430円で、3カ月ですと2万1,190円と。前に赤間議員のほうから定期の補助金云々という話もありましたけども、ただ、やっぱり定期の補助金となると、どうしても二重補助になってしまうという部分がありますので、何らかの方策を考えていかないと、やっぱり長井市外から来る方が一番今度少なくなる。

私、今泉に住んでるんですけども、やっぱり長井市内の方が、逆に今泉まで電車、要するにJRに乗せるために車で送られてきているということも現実的に起きてますので、時間帯によっては今泉の道路も非常に渋滞してるというふうなこともありますので、やはりこの辺も考えていかないと、今後、長井工業であっても定員割れっていう部分に関しては、聞いた話だと米沢で米沢工業高校に入れない方は本来長井工業に来るんですけど、やはり定期の金額が高いために、そこで工業系を諦めて普通校、商業校に行っちゃうというふうな話も聞いてますので、やはりこういったことに関しては今後の検討課題として何らかのことで進めていかないとまずいんじゃないかと思うんですけども、教育長としてはいかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 平田 裕教育長。

○**平田 裕教育長** その定期代への補助等については、ここでは直接、教育委員会としては決定いたしかねますので、ただ、関係部局と十分今

後、話はしていきたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** よろしく願いいたします。

あと、専攻科について産業参事にお伺いしたいんですけど、先ほど黒沢尻工業高等学校だと思うんですけど、ここは3年間の後の2年間のコースという考え方でよろしいのか、それとも、高校3年間のうちに専攻科があるという考え方でよろしいんですか、それはどちらでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 谷澤秀一産業参事。

○**谷澤秀一産業参事** ここは2年間の専攻科で、10年前ほどにできたというふうに伺っております。

(「高校終わってから2年」の声あり)

○**谷澤秀一産業参事** 終わってから2年間です。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** 実際行われている学校があるのであれば、当然非常に有利な形で進めるのかな、ゼロから進めるんではかなり大変だなと思ってましたんで、あれば参考としていけるので、非常にいいのかなと思っております。

あと、電柱関連に関しては、基本的に、やはり車目線と言われても、車乗ってる人、見ないですよ。逆に気づいていないんですよ。走行車線の反対側にあった場合、やはり見えない。やっぱり前方注意してますから、側面にある広告をずっと見てるかと思ったら、見てないと思うんです。見てたら、もっと早く誰かおっしゃるんじゃないかと思ってるんですよ、あんだけ薄くなってれば。多分見てないから、逆にわからないんで今まで放置されてんじゃないかなと。

ですから、本当にこの車用としてその看板が、十字路とかとめるところであるのであれば、とまりますからあたりを見渡しますけど、やっぱり走行してる時に脇を見るというのはなかなかないことだと思いますので、その辺は検討課題として持っていかなきゃなんないかと思うん

ですが、その辺はいかがでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 谷澤秀一産業参事。

○**谷澤秀一産業参事** 先ほど申し上げましたが、やはりもう一度再考すべきというふうに考えますので、内部で検討させていただきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 4番、内谷邦彦議員。

○**4番 内谷邦彦議員** 今60万といっても少ない金額ではないですから、やはりそこを有効な形で使っていただいて、観光という部分に関しては有効な手だてをぜひつくっていただければと思います。

私の質問は以上で終わります。ありがとうございました。(拍手)

鈴木富美子議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 次に、順位4番、議席番号6番、鈴木富美子議員。

(6番、鈴木富美子議員登壇)

○**6番 鈴木富美子議員** こんにちは。創生会の鈴木富美子です。よろしく願いいたします。

道の駅川のみなと長井がオープンして約2カ月が過ぎました。オープンのときは桜の花もオープンを祝うかのように満開となり、長井においでいただいた皆様に満足していただいたのではないのでしょうか。

桜が終わり、今度はつつじ公園の白つつじも見事な花を咲かせ、多くの観光客においでいただきました。満開の白つつじの中での黒獅子まつりも天候に恵まれ、大盛況に終わったと思います。来年も長井に来てみよう、来年は友達も誘って来ようと言ってくださるお客様がふえたことに期待したいと思います。

それでは、幸せを感じるまちづくりを目指し、通告書に従いまして一般質問に入らせていただ